

御嶽山の噴火災害を踏まえた活火山の観測体制の強化に関する報告（目次案）

目次

- 1．はじめに
- 2．2014 年御嶽山噴火と観測体制における課題
 - 2 - 1．御嶽山噴火の経緯と対応
 - 2 - 2．気象庁の課題
 - 2 - 3．大学・研究機関等の課題
- 3．緊急に対処すべき事項
- 4．今後速やかに対処すべき事項
 - 4 - 1．気象庁における監視・評価体制
 - （1）火山活動や社会的条件を考慮した観測体制の構築
 - （2）これまでに発生した事象の経験や学術研究の成果を最大限活用した火山活動の評価体制の強化
 - （3）現地観測、観測強化や地元への情報収集、大学との意見交換（情報収集）
 - 4 - 2．水蒸気噴火のプロセスを理解するための技術開発の推進及びリモートセンシング技術など新たな観測技術の導入
 - 4 - 3．調査研究の推進のための研究体制
 - 4 - 4．調査・研究をより推進するための人材育成を含めた研究体制の強化への貢献
- 5．おわりに

参考資料

- ・火山噴火予知連絡会 火山観測体制等に関する検討会委員名簿
- ・御嶽山の噴火災害を踏まえた活火山の観測体制の強化に関する緊急提言
- ・火山観測体制等に関する検討会 開催実績
- ・第 10 回～第 14 回火山観測体制等に関する検討会議事概要
- ・2014 年 9 月 27 日御嶽山噴火に至る発表情報等一覧（第 10 回検討会資料）
- ・火山噴火予知連絡会 御嶽山の火山活動に関する検討結果（9/28 拡大幹事会、10/23 第 130 回予知連絡会、1/19 拡大幹事会、2/24 第 131 回火山噴火予知連絡会）
- ・水蒸気噴火と前兆現象の事例（第 10、11 回検討会資料抜粋）